奈良市消防団だより
～なでしこ新聞～

発行
奈良市消防団
〒630-8145
奈良市八条五丁目404-1
奈良市消防局
総務課内
☎ 0742-35-1199
編集人
奈良市消防団
広報指導分団
中村　亜矢子

令和元年度奈良県都市消防団長会 北和ブロック合同防災訓練

令和2年2月16日、第8回奈良市消防団活性化大会として布目ダムにおいて実施された「令和元年度消防団長会北和ブロック訓練」に参加しました。

配置場所へと駆ける団員

奈良市・大和郡山市・天理市・生駒市の4市からなる北和ブロックによる合同消火訓練が布目ダムにおいて実施され、奈良市消防団からは東部方面隊が参加しました。

今回の訓練は、布目ダム付近山林での延焼拡大の恐れのある大規模林野火災を想定。北和ブロック消防団へ応援を要請し、各市消防団が出動。現地到着後ダム湖より可搬式ポンプを用いての中継送水、消火を行うといった流れで行われました。

各市消防団の連携強化・資質向上を目的とした今回の訓練は、雨が降る悪天候でしたが、各団員が声を掛け合い速やかに消火活動を行う様子は実践さながらの緊張感が感じられ、団員の真剣さが伝わるものでした。

山林火災では消火に必要な水の確保や、延焼拡大を防ぐ活動を行うために多くの人員が必要となります。各市消防団が行っている日頃の基本訓練はもちろんですが、各市消防団の連携状況を確認できる今回のような合同訓練の重要性を改めて感じました。

また、今回のような消火訓練だけでなく、昨今大きな被害をもたらす台風や豪雨などの自然災害による風水災害への対応や救助活動など、消防相互応援協定による広域での協力体制強化、合同訓練実施継続が必要不可欠だと思います。

集中放水の様子

送水を見守る団員

湖水からの取水

南部方面隊の地域活動

山中教生方面隊長率いる南部方面隊は、辰市・東市・帯解・明治・精華の５分団、総勢153名。そのほとんどが都南中学校の卒業生で強い団結力が自慢の部隊です。

今回は辰市分団と東市分団の方々にお話を伺いました。コロナ禍という特殊な環境下での活動を与儀なくされていますが、辰市分団は非常事態宣言解除後、感染防止対策に留意しながら東九条下池での防水訓練や機材操作訓練、救命講習の受講とスキルを高めました。また、

辰市地域は低地に集落があり、水災害の多い土地柄の為「水が出たら消防が頼りや」という声も耳にします。梅雨や台風時の冠水に備えての≪土のう≫作りも地域を守る為の活動の一つです。自然災害に微力ではありますが地域の手助けの一翼になればと日々活動されています。

東市分団内には護国神社があり、東市地域の出初式は神社で行われます。玉串を奉納し祝詞をあげていただき地域の人々の健康・安全・無事故を祈願し一年をスタートします。【団結の南部方面隊】のご活躍をこれからも期待します。

我が分団　自慢の「人」
東市分団　山本浩市分団長

平成19年にお父さんの跡を継いで班長として入団して以来、地域社会との関わりを深め、消防団活動だけでなく、民生委員や自治会長、自治連合会副会長などを引き受けられ誠実さや責任感の強さから地域の皆さまからの信頼も厚い頼れる分団長。以前行われた敬老の集いでは慣れない司会で紹介する方の名前を飛ばしてしまったり苦戦しながらも地域のお年寄りと和やかな集いを楽しまれるなど地域に密着した活動もされています。また、ご近所の方から「こうちゃん」と親しみを込めて呼ばれている分団長は、横井町でお好み焼き店『ファミリーショップ山坂』を営まれていて、一番のおススメは≪すじ玉≫だそうで「うちのはよそさんの所と違って生のすじを鉄板で焼いて生地の上に置いて焼くんや」と話されていました。

分団長として多忙な活動もご家族の協力・応援を後ろ盾に、更なるご活躍に期待大です。

2021年新春号　奈良市消防団だより　令和3年1月30日(土)

学生消防分団発足！
～若い力、新しい風～

令和2年4月1日、奈良市初の機能別消防分団として、奈良市内に在住・通学する学生で構成される≪奈良市消防団学生消防分団≫が誕生しました。

広報や大規模災害時の避難所支援など活動内容を限定した「機能別団員」として活動を開始した学生の皆さんは限られた時間の中、基本の規律訓練や救命講習を受け、放水やホース巻き体験、防災啓発活動の一環として紙芝居作成など、消防団の一員としての励んでいます。

辞令交付の様子

学生消防分団員の皆さんに
各々の思いについてアンケートをとってみたところ…

≪学生消防分団入団の動機≫
- 自分が住む地域の消防団員が定期的に火の用心のため町を歩いていたのを見て興味をもち、学生消防団の存在を知り入団
- 防災に関心があり、学生の立場でできることを増やしたいと思った
- 祖父が消防団に入っていて、その頃の話をよく聞いていて自分も祖父のようになりたいと思った
- 消防士を目指しており、学生の間に少しでも地域や社会貢献活動をしたい

≪今後どのような活動をしたいか≫
- 規律訓練や救命処置の練習を繰り返し精度を高めたい
- 学校に行って防災について広報活動がしたい。
- 市民の皆様と関わってみたい。
- 学生消防分団の活動に積極的に参加し地域に貢献していきたい
- より詳しい救命法の仕方を学びたい
- 学生消防分団を市民の皆さんに知ってもらえる活動
- 学生消防分団のマスコットキャラクターをつくる

…など、学生時代のみといった期間限定での所属となりますが、高い意識を持って入団された皆さんの今後の活躍に期待大！

消防団として
～さまざまな活動～

長く続くコロナ禍の中で、消防団としての活動も今までの通りとはいかない状況下ですが、感染防止対策を行いながら、また規模を縮小しながらも徐々に訓練や活動を行っています。

消防団広報車

広報車両での巡回では感染拡大防止の呼び掛けを各地域で定期的に行い、一時中断していた幼稚園や小学校での防災広報活動や応急手当講習においても感染防止対策を行い活動しています。

毎年、全消防団員が出動する「出初式」は開催日程がコロナ感染警戒ステージ3の期間中のため残念ながら中止となりました。

点火された若草山

また、一昨年より広報指導分団も山への点火作業に参加している「若草山焼き」は奈良に早春を告げる伝統行事として多くの観光客が楽しみにされています。残念ながら今年度は花火や各種イベントや、消防団出発式の中止や点火範囲を縮小して開催されました。

救命講習受講

近年、各地でおきているゲリラ豪雨や地震など、多くの自然災害の発生で防災意識が高まりをみせる中、地域防災力の強化や地域社会との繋がりにと、若い力を思う存分発揮してくれると思います。

学生消防団員の放水体験

編集後記

コロナ禍で今までの日常が大きく変わりました。マスク着用やアルコール消毒に「三密」を避けての行動が当たり前となり、様々なことに制限がかかる「ウィズコロナ」の生活は、大きなストレスを感じるものです。ワクチン開発のニュースで少しは終息のきざしが見え始める中、治療薬の開発に期待したいところです。

気兼ねなく出掛けることができ多くの人が交流できるイベントが開催できる、そういった日常が早く戻ってくるためにはこまめな手洗い、マスク着用、咳エチケットなど個人ができる感染拡大防止対策の基本を継続することが大切ですね。

消防団員募集！

≪お問い合わせ≫
〒630-8145
奈良市八条町五丁目404-1
奈良市消防局総務課内

奈良市消防団　検索

TEL.0742 35-1199

1月26日は『文化財防火デー』

1月23日～29日は文化財防火週間

文化財防火デーとは。。。
昭和24年1月26日、法隆寺金堂の火災により壁画が焼損したことから昭和25年に文化財保護法が制定され、文化財保護思想の強化・徹底を図るための啓発活動の一環として、法隆寺金堂消失の日であり、1月・2月に火災が多い事から昭和30年に1月26日を『文化財防火デー』に制定し、文化財愛護に関する意識の高揚を図っています。

薬師寺（やくしじ）～白鳳伽藍（はくほうがらん）～

令和２年１月20日、文化財防火週間に先立ち薬師寺白鳳伽藍にて消防総合訓練が行われました。大規模な訓練は２００８年以来となり、2019年におきた沖縄首里城の火災を受け訓練実施を決めたとの事で、僧侶や同寺自衛消防隊、女性防災クラブ連合会、南消防署員、消防団からは西部方面隊都跡分団と総勢約100人が参加しました。

金堂内の祭壇にある灯明ろうそくの火が供花にうつり延焼拡大、さらに強風により西塔への延焼拡大のおそれがあるとの想定で始まった訓練では、本部指揮のもと救助隊、消防隊を中心に参拝に訪れていた観光客の避難誘導や負傷者の搬送、堂内の仏像搬出した後、消防車や放水銃での消火活動を開始。

金堂への一斉放水

金堂南側からの一斉放水に続き、高所救助放水車による西塔の水煙部分への放水と同時に地上からも放水を行いました。

訓練終了後、今回の訓練について薬師寺加藤朝胤管主、南消防署長より講評を受け、改めて貴重な文化財を火災から守り、後世に伝え残していくことの大切さを感じました。

今回の消防総合訓練には都跡小学校の児童が訪れ、迫力ある放水の様子や真剣な訓練の様子を歓声をあげながら見学しつつ、防火・防災について学ぶ姿がありました。訓練終了後には、広報指導分団員と一緒に火に見立てた的を倒す消火器の操作を体験しました。訓練用の水消火器ではありましたが、実際の体験はいざという時に役立つと思います。

訓練に多くの人が参加

2009年から約10年間、覆屋(おおいや)に囲われていた奈良時代創建当時唯一の建造物である国宝『東塔』が全面解体修理を終え昨年春にその姿を見せました。今もなお往時の姿を保ち続けている東塔を含め貴重な多くの文化財をさらなる後世に引き継がれていくよう、日頃から防災・防火意識を高め過ごすことが世界遺産を含め文化財を多く有する奈良では特に必要なのだと感じました。

高所への放水

仏像を搬出

消火器操作体験

2020年度　全国統一防火標語

その火事を
防ぐあなたに
金メダル

令和２年２月10日、平城宮跡歴史公園朱雀門において消防署員・消防団員を中心に国交省・文化庁・平城宮跡管理センター職員・奈良県指定管理者や施設関係者、来園者と多くの方が参加し消防訓練が実施されました。

朱雀門への一斉放水

2019年に発生した「世界遺産首里城」の火災をうけ、文化財を守る訓練を行うことで防火意識の向上や防火管理体制の強化に繋がると思います。

当日指揮を担当した都跡分団新井分団長は「先月の薬師寺防火訓練から日も浅いので、スムーズに十分な消火活動ができた」と講評されました。

訓練開始へ向けて

朱雀門（すざくもん）～平城宮跡歴史公園（へいじょうきゅうせきれきしこうえん）～

世界遺産をはじめとした歴史を紡ぐ
貴重な奈良の文化財を守るために

奈良市消防局の文化財防火について

奈良市消防局長　西岡 光治

奈良時代に日本の都として平城京が栄えその後1300年の時を経て、奈良には貴重な文化財が多数存在しています。

これらの先人より受け継いだ貴重な文化財を火災等の災害から守り、次の世代に伝えていくことは消防に課せられた重要な使命であります。

奈良市消防局では、文化財を守るために文化財防災官を配置し、文化財建造物の防火管理体制の充実や消防用設備等の設置及び火気使用制限等を行うとともに特別消防対象物警備計画等を作成し、防火安全対策に努めています。

しかしながら過去を振り返りますと市内におきましても貴重な文化財が火災等の災害により焼損や損壊したこともあり、全国的に見ても大規模な災害等により多くの文化財等が被害にあっております。

これらの文化財をあらゆる災害から守るためには消防局のみならず、文化財関係者や地域の方々の日ごろの備えと協力が大切であり、中でも地域の防災の要でもある消防団との連携は大変重要であります。

これからも皆様の協力のもと文化財の防火訓練に積極的に取り組み、後世へと引き継いでいくための施策を推進してまいります。

奈良市消防団が考える文化財防火

奈良市消防団長　中室 貞浩

私達の住む奈良市には数多くの歴史的文化財があり、奈良市民にとってはごく普通にあるものなのですが貴重な文化遺産であり後世に伝えるべきものでもあります。

我々消防団員が日頃から文化財を守る事を意識し防火、自然災害から守る心構えを地域の住民、常備消防と共に日頃から訓練を繰り返す事が大切だと思います。

新型コロナウイル感染症に対して我々消防団員も十分な感染予防、ソーシャルディスタンスを守りながら、これからは『 ウィズコロナ 』で訓練等を再開し災害に立ち向かいたいと思います。

＊ウイズコロナとはコロナウイルスと共存していく社会のことを指します。
コロナウイルスが存在する事が前提で新しい日常を生きて行くという意味です。

西大寺（さいだいじ）～四王堂（しおうどう）～

令和２年３月９日、西部方面隊指導のもと各分団と西大寺職員や関係者など多くの方が参加し、文化財防火訓練が開催されました。

四王堂からの出火を想定し、文化財に見立てた箱の運び出し訓練には職員の方々も真剣に取り組まれていました。続けて四王堂の前庭にて団員による水消火器を使用しての消火訓練、その後場所を東塔跡前に移して小型ポンプによる放水訓練が行われました。防火服を着用した団員が素早く「あうん」の呼吸で　ポンプ操作の準備をし参道に向けて放水を行う様子は訓練とはいえ職員や団員が一丸となった姿を目の当たりにし、「火災から文化財を守る！」という気迫を感じ、訓練の重要さ普段何気なく訪れている境内に「放水銃」の水栓が設置されていることなどから、景観を大切にしながらも文化財を大切に思う防火の意識の高さ改めて感じました。

参道の放水銃からの放水

文化財を守る消火設備

ポンプによる放水